

『ユニオンファンド』

商品分類（追加型投信／内外／株式）

交付運用報告書

第9期（決算日 2017年10月2日）

作成対象期間：2016年10月1日～2017年10月2日

第9期末（2017年10月2日）	
基準価額	24,971円
純資産総額	5,751百万円
第9期（2016年10月1日～2017年10月2日）	
騰落率	25.5%
分配金合計	0円

※基準価額は、1万口当たりで表示しています。

※純資産総額は、単位未満切捨てで表示しています。

※騰落率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

- ◎ 交付運用報告書は、運用報告書（全体版）に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。
- ◎ 当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供する旨を定めています。運用報告書（全体版）は、下記のホームページの「運用状況」から閲覧およびダウンロードすることができます。
- ◎ 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付を請求される方は、下記お問い合わせ先までお問い合わせください。

本書の記載内容等に関するお問い合わせ先

ユニオン投信株式会社 業務管理部

電話番号：0263-38-0725

受付時間：午前9時～午後5時

（土日祝日、年末年始を除きます。）

ホームページ：<http://www.unionam.co.jp/>

受益者のみなさまへ…

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、「ユニオンファンド」は、第9期決算を迎えることができました。ここに期中の運用状況等についてご報告申し上げます。

2008年のリーマンショックの荒波の中、運用をスタートし、2010年代に入ってからもギリシャショック、ユーロ危機、チャイナショックと世界的にも大きな危機を乗り越えてきました。

ひとえに、当ファンドを信じて、お金を託していただいているお客様のお蔭であり、また世界中の企業が逞しく度々の危機を乗り越えてきたお蔭でもあります。

これからも、“予期せざる未知”に遭遇することはあると考えます。それでも、「よりよい社会にしたい」という人間の欲と行動でそれらを乗り越えていくはずです。

さあ、私たちも、今を逞しく、未来に向かって、進化していきましょう。

ファンド仲間の皆様からお預かりした大切なご資金は、選び抜いたファンドを通じて世界中の選び抜かれた企業に投資しています。

皆様の資産形成のお役に立てるよう邁進してまいります。

あなたと大切な方の未来のために

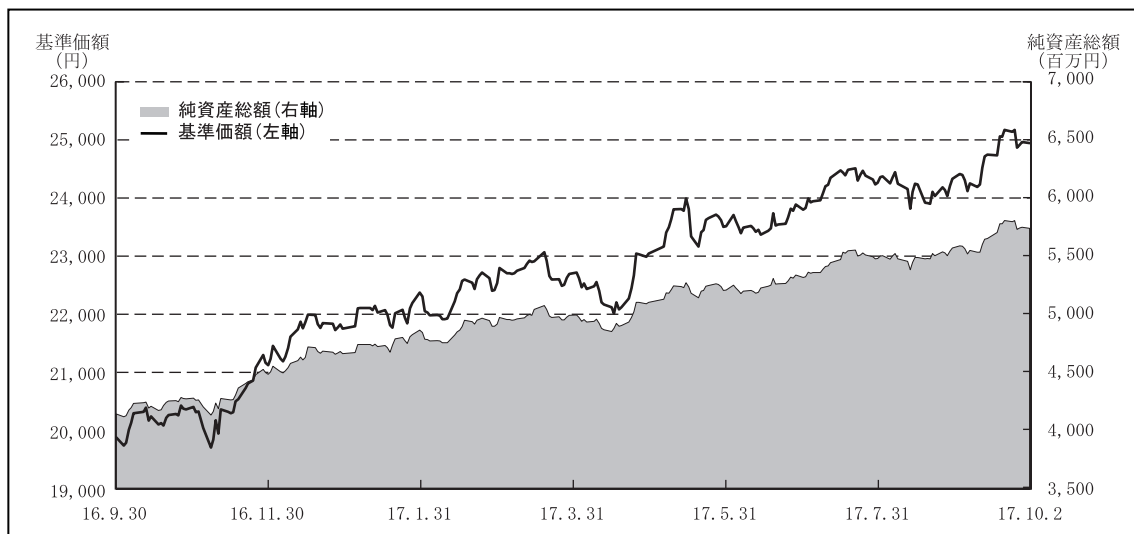
ユニオン投信 Union Asset Management

〒390-0815

長野県松本市深志一丁目1番21号

中田歯科ビル5F

■ 基準価額等の推移 (2016年9月30日～2017年10月2日)



第9期首：19,893円

第9期末：24,971円

(既払分配金：0円)

騰落率：25.5%

(注1) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。基準価額がファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

(注3) 騰落率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

■ 基準価額の主な変動要因 (第9期：2016年10月1日～2017年10月2日)

当期は、世界的に株価が上昇し、為替市場では概ね円安となりました。当ファンドは、日本を含む世界の株式にファンドを通じて投資していますが、組み入れているファンドのすべてが値上がりし、基準価額のプラス要因となりました。

最大の値上がりとなったのはハリスFで、期中で48.2%の大幅高となりました。投資対象市場である欧米の株価好調と円安に加え、銘柄選択が功を奏したため、市場の動きを大きく上回りました。また、キャピタルF、コムジェストEMFも、期中の値上がりが30%前後に達し、当ファンドの

値上がりに寄与しました。

一方、当期は期首から組入比率を段階的に引き上げてまいりましたが、期中の平均で81%程度とやや慎重なスタンスを維持したため、組入ファンドの値上がりを享受できなかった部分がありました。

(注) 当交付運用報告書では、組入ファンドの名称を以下のとおり省略して記載することがあります。

- ・「さわかみファンド」：さわかみF
- ・「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ」：キャピタルF
- ・「ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007 (適格機関投資家専用)」：ハリスF
- ・「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA (適格機関投資家限定)」：コムジェストEUF
- ・「ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA (適格機関投資家限定)」：コムジェストEMF

■ 1万口当たりの費用明細 (第9期：2016年10月1日～2017年10月2日)

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	198 (124) (67) (7)	0.864 (0.540) (0.292) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	5 (5)	0.020 (0.020)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 (各月末の残存受益権口数の単純平均) 金銭信託にかかる手数料等
合計	203	0.884	
期中の平均基準価額は、22,914円です。			

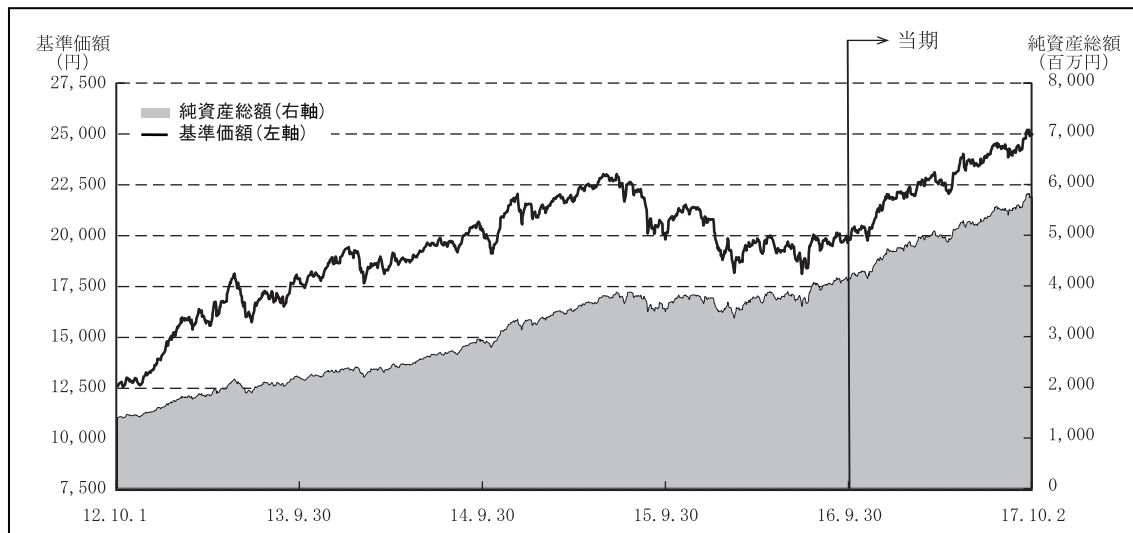
(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期間における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては、「組入ファンドの概要」に表示しています。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額 (各月末の基準価額の単純平均) で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

■最近5年間の基準価額等の推移（2012年10月1日～2017年10月2日）



	2012年10月1日 決算日	2013年9月30日 決算日	2014年9月30日 決算日	2015年9月30日 決算日	2016年9月30日 決算日	2017年10月2日 決算日
基準価額 (円)	12,529	17,852	20,291	19,779	19,893	24,971
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	42.5	13.7	△2.5	0.6	25.5
純資産総額 (百万円)	1,391	2,193	2,926	3,492	4,151	5,751

(注1) 比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。

(注3) 騰落率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

■投資環境（第9期：2016年10月1日～2017年10月2日）

当期は、2016年11月の米国大統領選挙や2017年春以降の欧州主要国での選挙、さらに米国と北朝鮮の対立激化など、主に政治面での懸念要因が市況を一時的に悪化させる場面がたびたびありました。しかし、いずれも懸念されたほどの悪い結果とはならなかったため、世界的な景気拡大と企業業績の好調がほぼ一貫して評価される展開となりました。世界の株式市場は全体として2ケタ上昇し、為替市場では対円でドルは約11%、ユーロは約17%、新興国通貨は約12%それぞれ上昇しました。海外の株式に高いウェイトをかけている当ファンドには良好な環境となりました。

以下、株式市場、為替市場のそれぞれについて推移をご説明します。

【株式市場の動き】

当期は、中国の景気悪化懸念、英国によるEU離脱決定という大きなマイナス材料による動揺が徐々に和らぐ中でスタートしました。

2016年11月の米国大統領選挙では、大方の事前予想に反して共和党のトランプ候補が当選しました。投票日の直前にはトランプ候補の当選を警戒して株価は軟調となり、実際、当選が決まった直後は日本をはじめ多く株式市場が大きく動揺しました。しかし、トランプ氏が公約に掲げてきた大規模な減税やインフラ投資が評価されると、景気拡大への期待が広がって株価は反騰しました。

2017年に入りますと、欧州主要国での選挙の見通しが一時株価の上値を押さえました。英国、米国と相次いで自国中心主義を掲げる主張が広がっていたこともあり、オランダ総選挙（3月）やフランス大統領選挙（4～5月）では極右勢力が力を増して保護貿易主義が強まり、世界経済にマイナスの影響が及ぶのではないかと懸念されました。しかし、オランダ、フランスともに極右勢力の伸びは予想より鈍く、市場に安心感が広がったことから株価の調整は一時的なもので済みました。

その後は、北朝鮮による核兵器と長距離ミサイルの開発を巡って米国と北朝鮮の間の対立が激しさを増し、株価が調整する場面がありました。しかし、市場関係者は武力衝突の可能性を高く見ておらず、株価の調整は限定的でした。

この間、2016年の年明けあたりに底打ちしていた世界の景気は回復ピッチが徐々に高まり、かつ世界中に広がりを見せました。また、企業業績もほぼ一貫して拡大しました。米国では、失業率が歴史的な低水準にほぼ達するなど、景気は高水準を維持しましたが、拡大ピッチは期待ほど高まらないままでした。一方、欧州や新興国では景気回復が加速したため、株価の上昇率は前期を上回りました。

【為替市場の動き】

総じて円安傾向の1年でした。米国では当期に政策金利が3回（2015年12月からの通算では4回）引き上げられ、欧州でもECB（欧州中央銀行）が量的緩和策を転換し始めました。一方、日銀は超緩和的な金融政策の継続を掲げ、日本の金利が相対的に低いまま推移すると見られたことが、円安の主因と考えられます。

ドル円は、米国大統領選直後から2017年初めにかけて大きく上昇しました。トランプ政権の政策による景気拡大期待とそれにとまなう金利上昇予想が背景です。ただ、政策実現への疑問が次第に広がったことや、米国景気の拡大ピッチの鈍さ、インフレ率の低迷などから、金融引き締めはかなりゆっくり進むとの見方が強まりました。このため、ドルは年初までの上昇分のかなりを帳消しにしました。

ユーロは、欧州景気の復調が鮮明となり、金融緩和策も徐々に縮小に向かうとの見方が広がるにつれて強さを増しました。対円では1～3月にかけて調整する場面もありましたが、前期末比では大幅な上昇で終わりました。

新興国通貨は、ロシアやブラジルの経済がプラス成長に転じる見通しとなるなど全般に景気が明るさを増したことなどを背景に、ほぼ堅調に推移しました。対ドルレートはほぼ横ばいを維持し、対円では上昇しました。

■当ファンドの運用経過と結果

当ファンドは、世界の株価の長期的な成長を通じて基準価額の上昇を目指しています。とりわけ新興国の株式は、中長期的な経済成長と企業業績の拡大にともなって株価も上昇していくとの考え方にに基づき、当期も相対的に高めのウェイトで投資を継続しました。

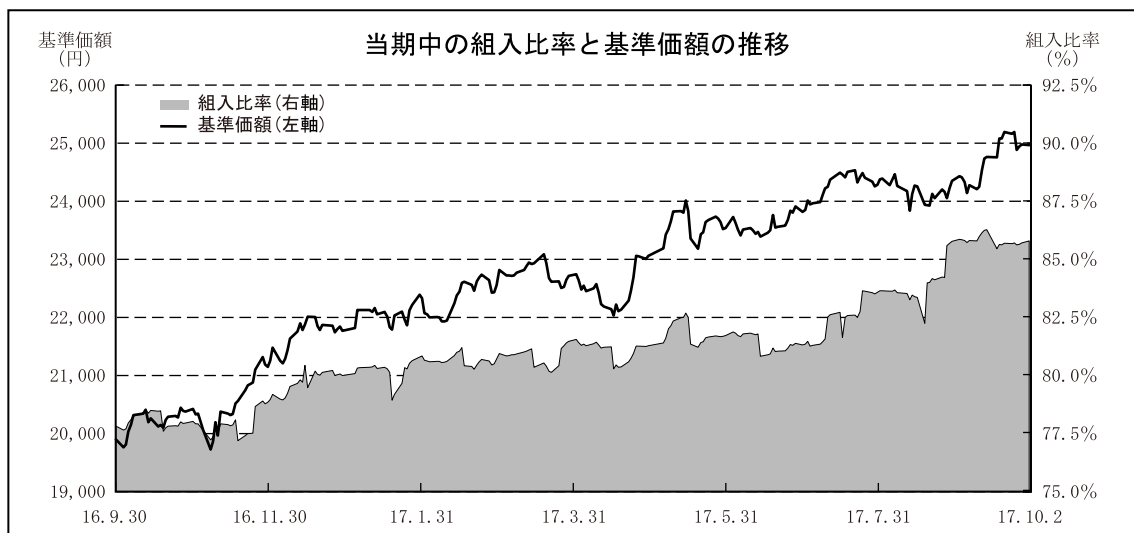
当期の世界経済は総じて順調な拡大が続きましたが、一方では北朝鮮問題や米国の利上げの影響、中国の不良債権問題といった不確実な要素もはらんだまま推移しました。こうした状況を考慮し、組入比率は引き続き若干抑え気味としつつ、市場の軟化局面を中心に買い増しを行いました。なかでも前期途中から市場環境が追い風になり好調さを取り戻したハリスFの組入比率をやや大きめに引き上げました。

また、7月にはコムジェストEUFへの投資を開始しました。同ファンドは欧州の優れた企業を厳選して投資しており、今後も高い運用成果が期待できると判断したことに加え、米国株に比べて欧州株の割安感が強いことも考慮したものです。

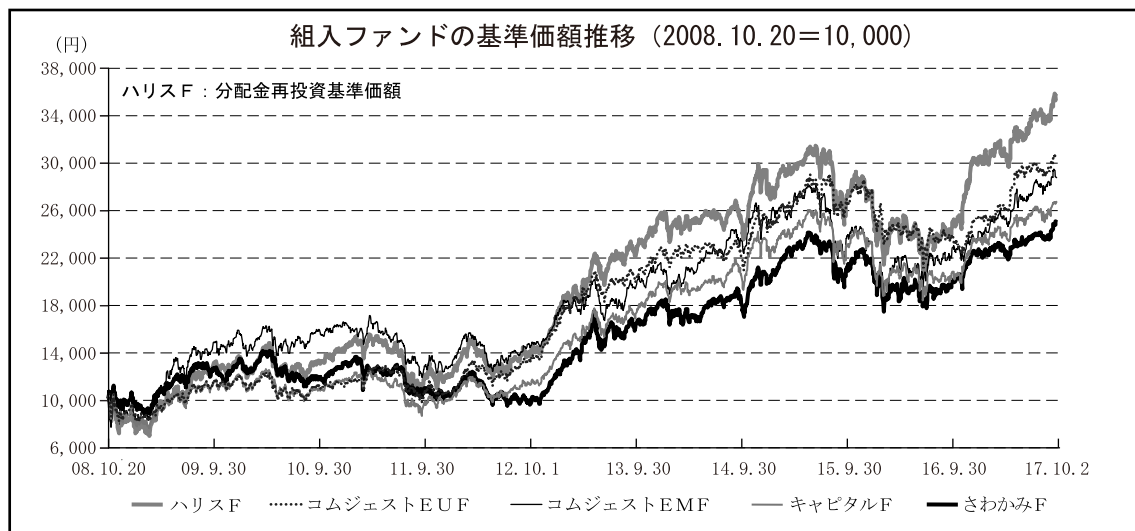
以上の結果、全体の組入比率は期首の77.8%に対し、期末は85.8%へと高まっています。

ファンド別の組入比率は、コムジェストEMF 38.0%、ハリスF 22.4%、キャピタルF 13.8%、さわかみF 7.2%、コムジェストEUF 4.5%としています。

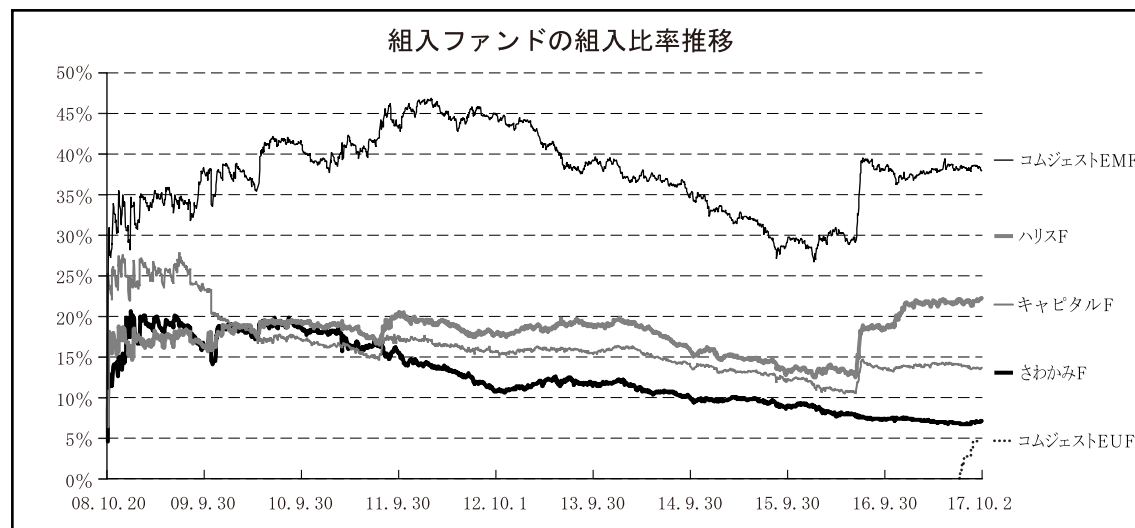
地域別には、コムジェストEMFを高位に保ったことから新興国の割合が引き続き最大となっています。また、欧州株の組み入れが比較的多いハリスFの組み入れを増やしたことと、コムジェストEUFへの新規投資により、欧州株式の割合を前期に比べ高めました。



【参考情報】ユニオンファンド設定以来の組入ファンドの状況



(注) 上記グラフはユニオンファンドの組み入れ時期にかかわらず記載しています。



■ベンチマーク

当ファンドは、比較できる適切な指数が存在しないため、運用の目標とするベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

■分配金

基準価額の水準、投資環境、運用の安定等を考慮し、当期は分配を行わないこととしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（第9期：2016年10月1日～2017年10月2日）
（1万口当たり、税込み）

項目	当期
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	14,971

（注1）対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益および当期の収益以外は円未満切捨てで表示しているため、その合計が当期分配金と一致しないことがあります。

今後の運用方針

米国大統領選では、その直前と直後に下落した株価がトランプ候補の当選で急反騰に転じるという予想外の展開を見せました。このことは、市場の動きを予想することがいかに難しいかを改めて教えてくれるものです。世界には常に株価を押し下げるリスク要因があるものの、肝心なのはやはり景気と企業業績だと考えます。

一方、金融政策を中心として金融環境が過去には株価に大きな影響を与えてきました。米国では今後一段と金利が引き上げられる可能性が高いですし、中央銀行にあたるFRBは金融危機以降に買い付け保有し続けてきた債券の額を今後減らしていくことを決定しています。また、ECBも超緩和策の縮小を進めていくと見られます。金融政策のこうした転換は、時期と程度はさておき何らかの影響を市場に与えていくものと思われる。

もともと、これら投資環境の変化が影響する度合いは世界で一様というわけではありません。欧州と新興国は、国が抱える債務の問題や、銀行など金融機関の脆弱性などから、リーマンショック後の回復がかなり遅れました。景気拡大の年数もまだそれほど長くはなく、水準も低い状態にあります。業績水準と比較して見た株価にも、米国ほどの割高感がありません。これらのことは、今後の株価上昇余地が大きいことをうかがわせます。

こうした観点から、より割安で今後の成長が一層期待できる市場に投資するファンドや、それぞれの市場で優位性を持つファンドへの投資を今後も進めていく方針です。あわせて、投資対象としての要件に適したファンドの選定も進めてまいります。

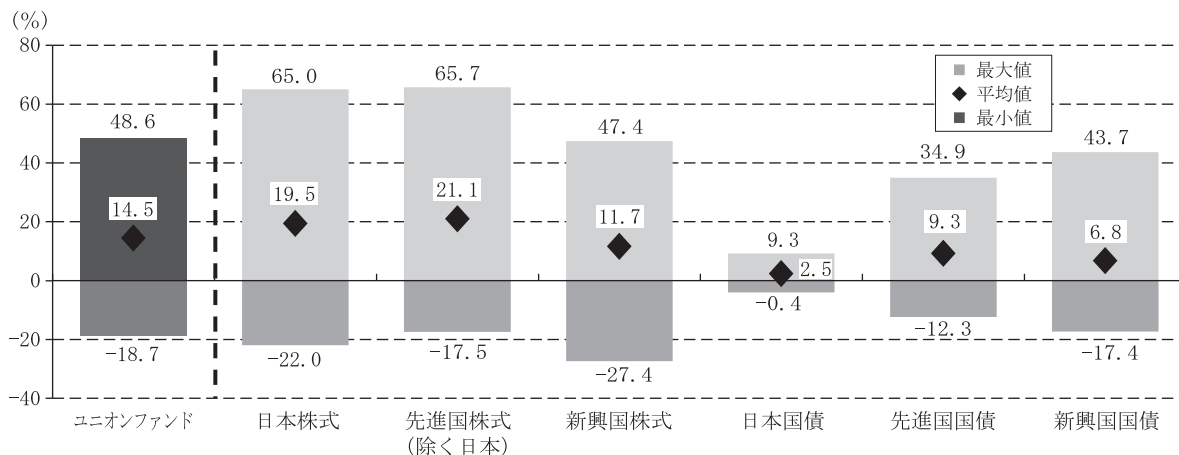
お知らせ

- ◎ 2017年6月30日付で、当ファンドの投資対象である投資信託証券に「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A（適格機関投資家限定）」を追加する信託約款の付表の変更を行いました。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式
信 託 期 間	無期限 (信託約款所定の信託終了事由が生じた場合に償還されることがあります。)
運 用 方 針	個人家計の「資産形成」を支援する目的で、「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資をします。
主 要 投 資 対 象	主として国内外の有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	①「株式」に投資します。 ②「グローバル」な視点で投資します。 ③運用は「ファンド・オブ・ファンズ」形式で行います。 ④実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します。 ⑤株価が割高と思われるときには、現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます。
組 入 制 限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ③外貨建資産への投資には制限を設けません。 ④株式への直接投資は行いません。 ⑤デリバティブの直接利用は行いません。
分 配 方 針	毎決算時、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、投資環境や市況動向等を勘案し決定します（分配を行わないことがあります。）。 当ファンドは分配金再投資専用であるため、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。

【参考情報】当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 2012年10月～2017年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 騰落率は、当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当期末に対応した数値とは異なります。

- 各資産クラスの指数

日本株式 : TOPIX配当込み指数

先進国株式 : MSCI Kokusai (World ex Japan) Index

新興国株式 : MSCI EM (Emerging Markets) Index

日本国債 : NOMURA-BPI国債

先進国国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし円ベース)

新興国国債 : THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY index

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ※ 他の代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しています。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。

また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。

NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

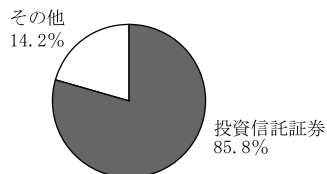
当ファンドのデータ

■組入資産の内容（第9期末：2017年10月2日現在）

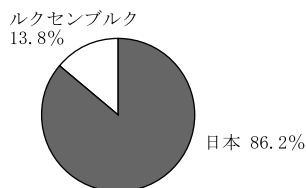
○ 組入ファンド

ファンド名	組入比率 (%)
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA	38.0
ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007	22.4
キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ	13.8
さわかみファンド	7.2
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA	4.5

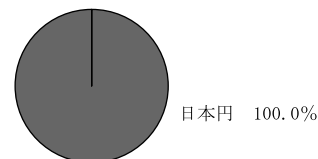
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 各組入ファンドに関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

(注3) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注4) 国別配分は、組入資産の発行国を表示しています。

■純資産等（第9期末：2017年10月2日現在）

項目	第9期末
純資産総額	5,751,207,351円
受益権総口数	2,303,143,656口
1万口当たり基準価額	24,971円

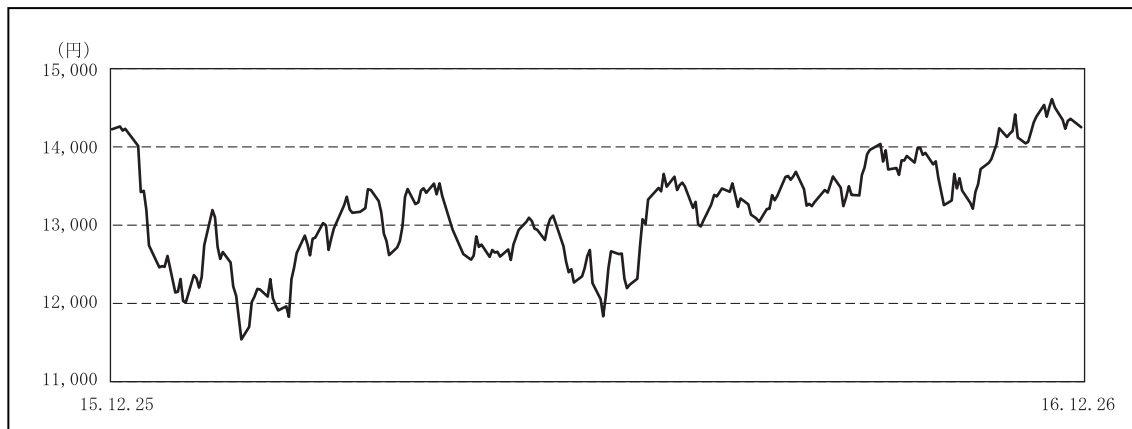
※ 第9期中における追加設定元本額は371,082,646円、同解約元本額は155,073,420円です。

■組入ファンドの概要

※ 各組入ファンドの概要は、当交付運用報告書作成時点において入手可能な直近計算期間に関する情報です。

1 《ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドS A（適格機関投資家限定）》

基準価額の推移（2015年12月25日～2016年12月26日）



1 万口当たりの費用明細 (2015年12月26日～2016年12月26日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	144 (86) (43) (14)	1.083 (0.650) (0.325) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	23 (23)	0.175 (0.175)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	5 (5)	0.036 (0.036)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他1) (その他2)	23 (20) (1) (1) (0)	0.170 (0.153) (0.007) (0.009) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 外国株式に関する各種手数料等 (ADR手数料や税務代理人費用等) インド株式におけるキャピタルゲイン課税等
合計	195	1.464	
期中の平均基準価額は、13,274円です。			

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

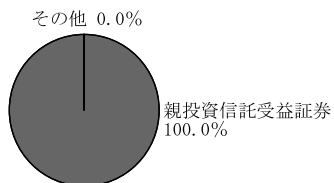
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2016年12月26日現在)

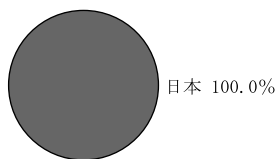
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ニッポンコムジェスト・エマージングマー ケッツ マザーファンド	日本	日本円	100.0
組入銘柄数					1銘柄

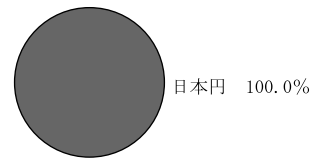
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

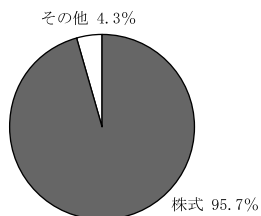
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2016年12月26日現在）

ニッポンコムジェスト・エマージングマーケッツ マザーファンド

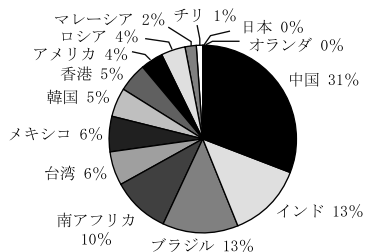
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	情報技術	台湾	米ドル	6.3
2	株式	CHINA LIFE INSURANCE CO-H	金融	中国	香港ドル	4.8
3	株式	NETEASE INC ADR	情報技術	中国	米ドル	4.5
4	株式	POWER GRID CORP OF INDIA LTD	公益事業	インド	インドルピー	4.3
5	株式	INFOSYS LTD-SP ADR	情報技術	インド	米ドル	3.8
6	株式	CHINA MOBILE LTD	電気通信サービス	中国	香港ドル	3.3
7	株式	SAMSUNG LIFE INSURANCE CO	金融	韓国	韓国ウォン	3.2
8	株式	MTN GROUP LTD	電気通信サービス	南アフリカ	南アフリカランド	3.1
9	株式	FOMENTO ECONOMICO MEXICANO	生活必需品	メキシコ	メキシコペソ	2.8
10	株式	BB SEGURIDADE PARTICIPACOES SA	金融	ブラジル	ブラジルリアル	2.8
組入銘柄数				39銘柄		

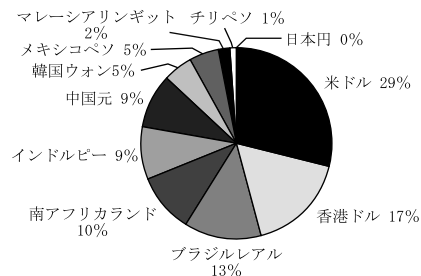
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



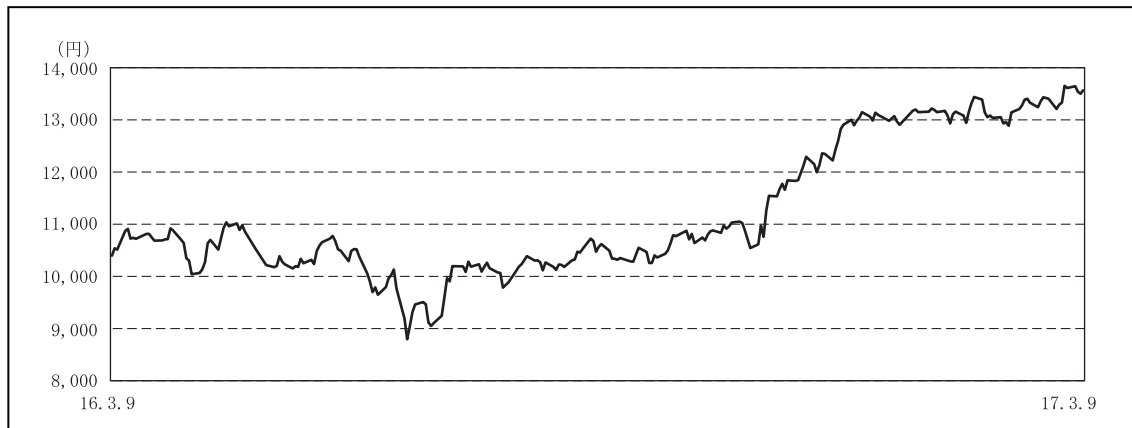
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、基本的にMSCI分類を使用しています。

2 《ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007（適格機関投資家専用）》

基準価額の推移（2016年3月9日～2017年3月9日）



1万口当たりの費用明細 (2016年3月10日～2017年3月9日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	158 (122) (27) (10)	1.404 (1.080) (0.238) (0.086)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	4 (4)	0.033 (0.033)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	3 (3)	0.029 (0.029)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	9 (8) (1) (0)	0.076 (0.070) (0.005) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・ 資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	174	1.542	
期中の平均基準価額は、11,282円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含みます。

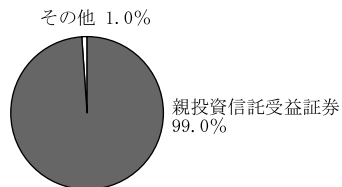
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2017年3月9日現在)

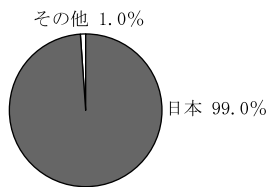
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ALAMCO ハリス グローバル パリュウ 株マザーファンド	日本	日本円	99.0
組入銘柄数					1銘柄

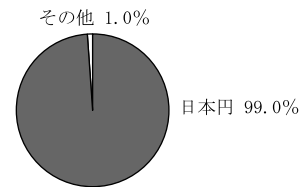
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

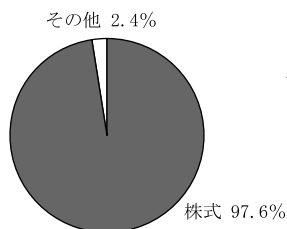
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2017年3月9日現在）

ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド

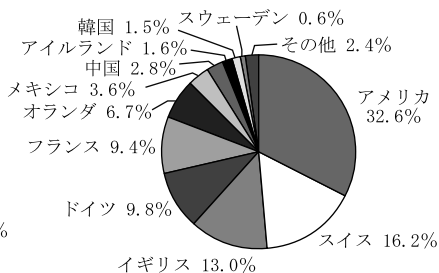
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	BNP PARIBAS	銀行	フランス	ユーロ	5.0
2	株式	CNH INDUSTRIAL NV	資本財	オランダ	ユーロ	5.0
3	株式	ALLIANZ SE	保険	ドイツ	ユーロ	4.9
4	株式	GLENCORE PLC	素材	イギリス	英ポンド	4.9
5	株式	DAIMLER AG-REG	自動車・自動車部品	ドイツ	ユーロ	4.8
6	株式	CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	各種金融	スイス	スイスフラン	4.8
7	株式	GENERAL MOTORS CO	自動車・自動車部品	アメリカ	米ドル	4.0
8	株式	JULIUS BAER GROUP LTD	各種金融	スイス	スイスフラン	3.6
9	株式	GRUPO TELEVISIA SA-SPON ADR	メディア	メキシコ	米ドル	3.6
10	株式	WELLS FARGO & CO	銀行	アメリカ	米ドル	3.3
組入銘柄数				36銘柄		

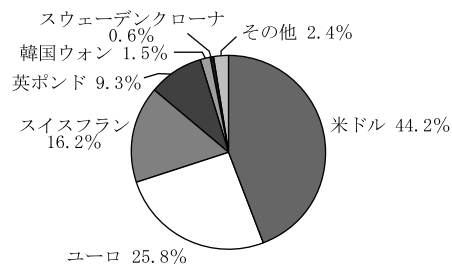
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



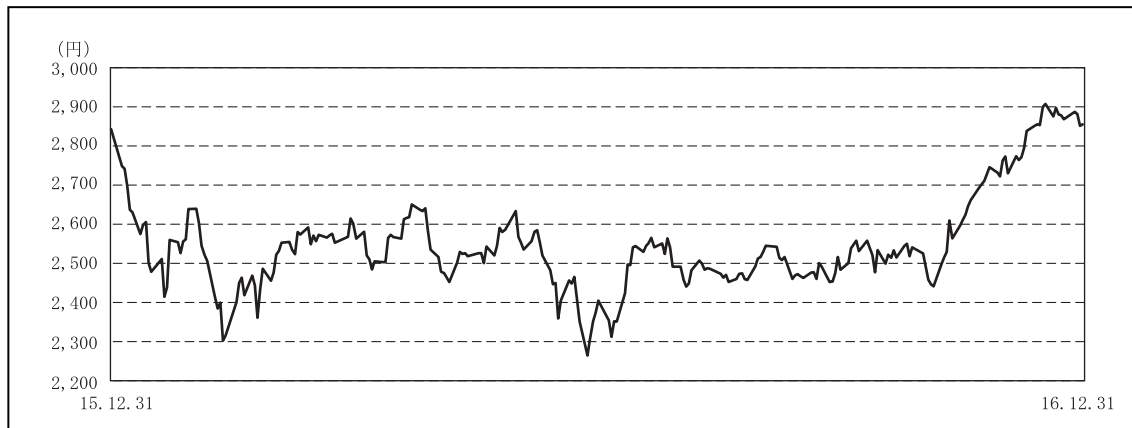
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、ユニオン投信株式会社の判断により分類しています。

3 《キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ》

基準価額の推移（2015年12月31日～2016年12月31日）



1万口当たりの費用明細（2016年1月1日～2016年12月31日）

情報が取得できないため記載していません。

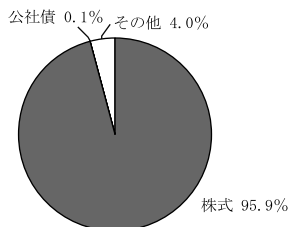
組入資産の内容（2016年12月31日現在）

※以下の組入資産の各内容は、キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）全体のものです。

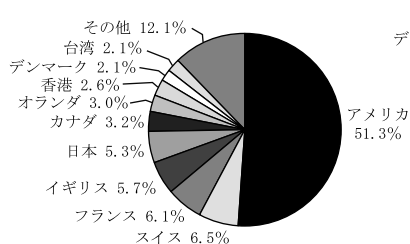
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	Microsoft Corp.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.7
2	株式	Alphabet, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.2
3	株式	Incyte Corp.	ヘルスケア	アメリカ	米ドル	2.1
4	株式	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	情報技術	台湾	米ドル、台湾ドル	2.1
5	株式	Visa, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.0
6	株式	ASML Holding NV	情報技術	オランダ	ユーロ、米ドル	2.0
7	株式	AIA Group Ltd.	金融	香港	香港ドル	2.0
8	株式	CME Group, Inc.	金融	アメリカ	米ドル	1.8
9	株式	Schlumberger Ltd.	エネルギー	アメリカ	米ドル	1.8
10	株式	LafargeHolcim Ltd.	素材	スイス	スイスフラン	1.6
組入銘柄数				164銘柄		

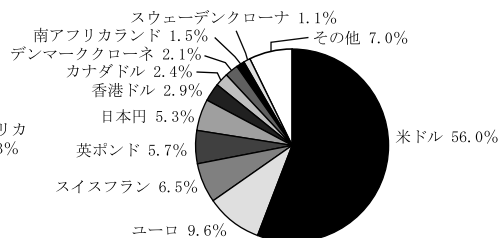
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



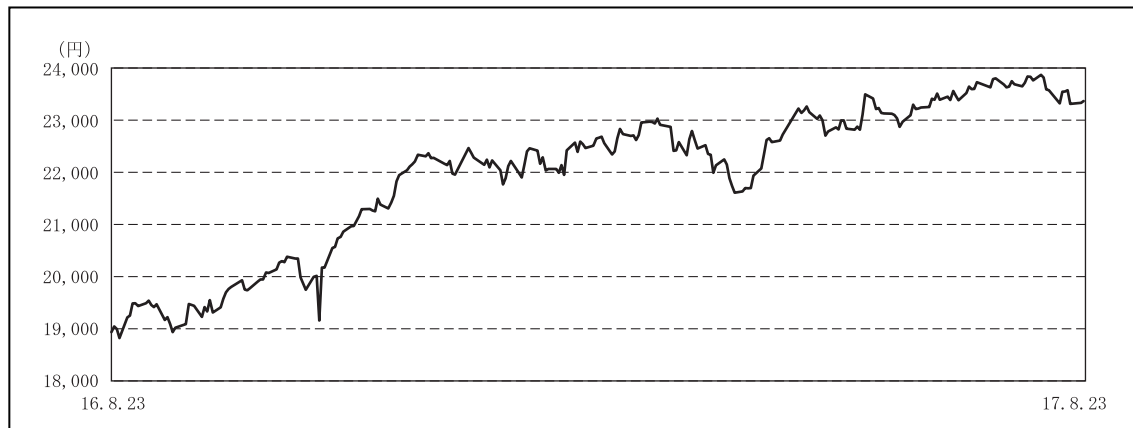
(注1) 比率は、純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 同一会社の株式は、それぞれまとめて1銘柄として組入比率および組入銘柄数を表示しています。

(注3) 現金、その他の資産等は、その他に含めて表示しています。

4 《さわかみファンド》

基準価額の推移 (2016年8月23日～2017年8月23日)



1万口当たりの費用明細 (2016年8月24日～2017年8月23日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	237 (130) (83) (24)	1.080 (0.594) (0.378) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	1 (1)	0.004 (0.004)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 金銭信託にかかる手数料等
合計	238	1.084	
期中の平均基準価額は、21,956円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

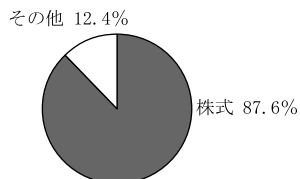
(注3) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2017年8月23日現在)

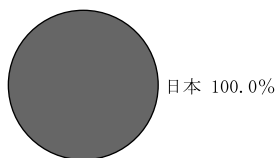
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ブリヂストン	ゴム製品	日本	日本円	4.7
2	株式	日本電産	電気機器	日本	日本円	4.3
3	株式	花王	化学	日本	日本円	3.5
4	株式	ダイキン工業	機械	日本	日本円	3.3
5	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	2.8
6	株式	信越化学工業	化学	日本	日本円	2.7
7	株式	国際石油開発帝石	鉱業	日本	日本円	2.6
8	株式	浜松ホトニクス	電気機器	日本	日本円	2.5
9	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	日本	日本円	2.5
10	株式	デンソー	輸送用機器	日本	日本円	2.1
				組入銘柄数		98銘柄

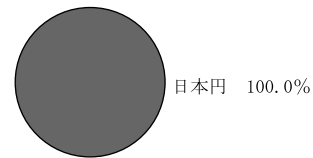
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



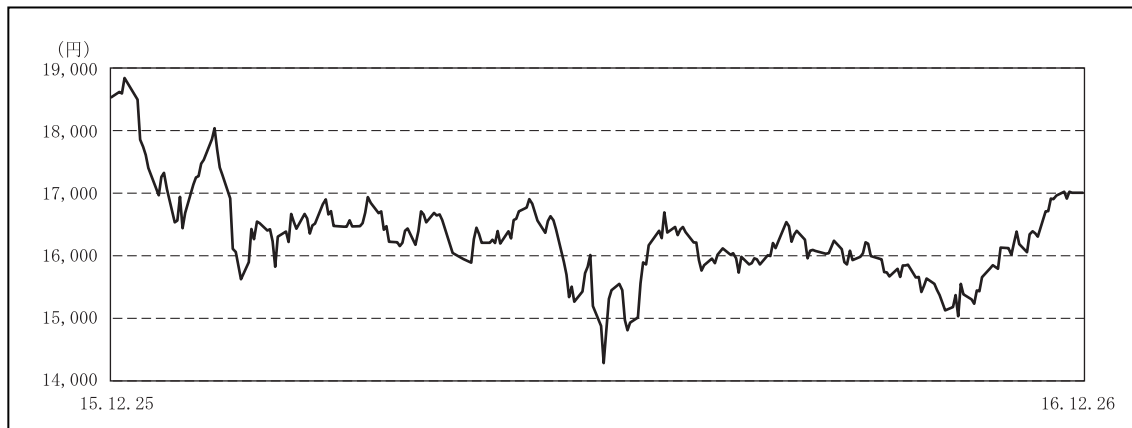
(注1) 組入上位10銘柄および資産別配分の比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、当組入ファンドの組入有価証券の評価額の合計に対する各評価額の割合です。

(注3) その他は、現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

5 《ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A（適格機関投資家限定）》

基準価額の推移（2015年12月25日～2016年12月26日）



1 万口当たりの費用明細 (2015年12月26日～2016年12月26日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	179 (108) (54) (18)	1.083 (0.650) (0.325) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	17 (17)	0.105 (0.105)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	9 (9)	0.057 (0.057)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他1) (その他2)	12 (10) (1) (1) (0)	0.071 (0.060) (0.005) (0.005) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 外国株式に関する各種手数料等 無利息金銭信託手数料等
合計	217	1.316	
期中の平均基準価額は、16,565円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

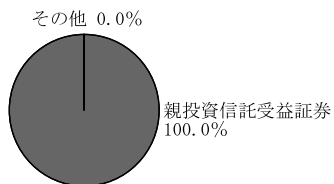
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2016年12月26日現在)

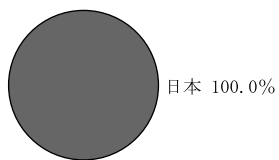
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マーファンド	日本	日本円	100.0
組入銘柄数					1銘柄

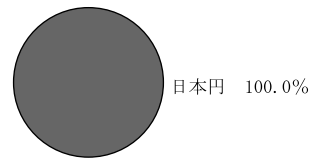
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

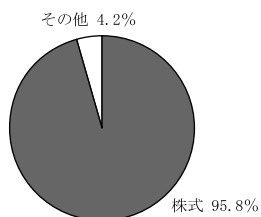
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2016年12月26日現在）

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド

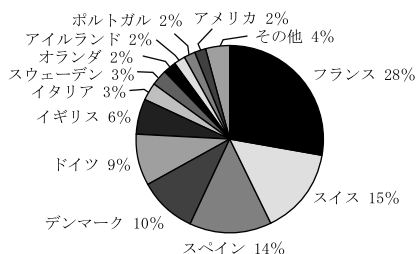
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	INDITEX	一般消費財・サービス	スペイン	ユーロ	7.4
2	株式	AMADEUS IT GROUP SA	情報技術	スペイン	ユーロ	6.1
3	株式	ESSILOR INTERNATIONAL	ヘルスケア	フランス	ユーロ	5.4
4	株式	DASSAULT SYSTEMES SA	情報技術	フランス	ユーロ	5.1
5	株式	COLOPLAST -B	ヘルスケア	デンマーク	デンマーククローネ	4.7
6	株式	L' OREAL	生活必需品	フランス	ユーロ	3.9
7	株式	SARTORIUS STEDIM BIOTECH	ヘルスケア	フランス	ユーロ	3.7
8	株式	WIRECARD AG	情報技術	ドイツ	ユーロ	3.6
9	株式	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	ヘルスケア	スイス	スイスフラン	3.6
10	株式	LINDT & SPRUENGLI AG-PC	生活必需品	スイス	スイスフラン	3.4
組入銘柄数						31銘柄

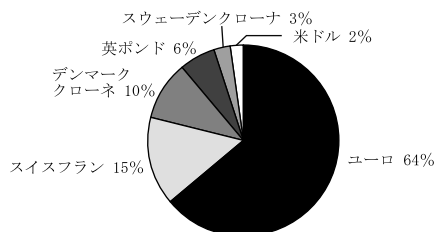
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、基本的にMSCI分類を使用しています。

【参考情報】直接販売の状況

当期末（2017年10月2日）の全口座数は、3,090件（前期末比+164名、+5.6%）になりました。また、「定期定額購入サービス」をご利用のお客様数は、全体の76.4%にあたる2,360件（前期末比+129件、+5.8%）になりました。

全口座のうち、残高のある口座の比率も、87.0%と引き続き高い水準を保っています。

このように定期定額購入サービスの利用率が極めて高いことが、弊社の特徴であり、強みでもあります。定期定額による購入額も順調に伸びてきており、当期は、ボーナス時期でもある2017年7月に7,100万円を超え、期中の月平均でも5,700万円に迫ってきました。このファンド仲間の皆様からのぶあつい定期定額マネーは、ユニオンファンドの運用に安定感をもたらしてくれます。

資金流出入につきましては、8億4,346万円の資金流入（買付）に対して、3億5,314万円の資金流出（解約）で、4億9,031万円の純流入となりました。株式市場が世界的に堅調に推移したこともあり、2017年9月に基準価額は25,000円を超え過去最高を更新しました。

これらの数字が示しているとおおり、基準価額の上昇と安定した資金流入に支えられ、当期末のユニオンファンドの純資産総額は57億5,120万円（前期末比+15億9,936万円、+38.5%）となりました。

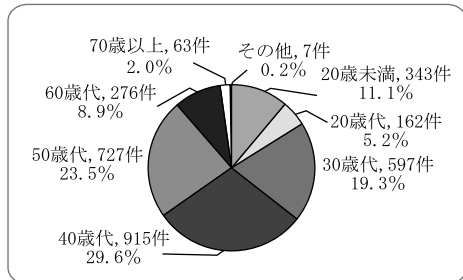
弊社は、働く仲間とその家族の方々の財産づくりのお手伝いをさせていただくべく設立された資産運用会社です。ファンド仲間の皆様一人一人が、自分らしい人生を過ごすための一助を担うことができるのであれば、これほど幸せなことはありません。

主にセミナーや個別相談等のFace to Faceの活動を中心に「生涯投資」・「グローバル投資」・「つみたて投資」の有効性や魅力、そして、これからの明るい未来のために、自らの意志で自らのお金を世の中に活かすことの大切さをご説明しており、弊社の経営理念や運用哲学にご賛同いただいたお客様がゆっくりではありますが、着実に増え続けています。

これからも、ユニオンファンドは、ファンド仲間の皆様の“生涯投資の道”の頼もしいパートナーであるべく、丁寧に丁寧に運用して参る所存です。

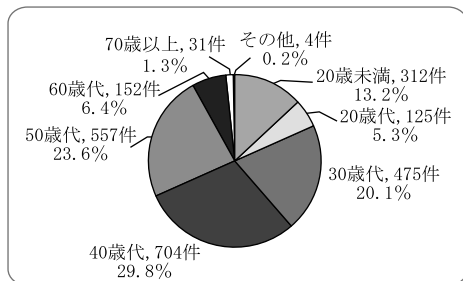
（注）各金額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別口座数（2017年10月2日現在）



（注）比率は、全口座数に対する各年代の口座数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入利用者数（2017年10月2日現在）



（注）比率は、全利用者数に対する各年代の利用者数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入1回当たりの平均引落額（2017年10月2日現在）

年代別引落額平均（月次）（単位：円）			
20歳未満	10,437	50歳代	32,724
20歳代	20,015	60歳代	37,897
30歳代	24,445	70歳以上	41,182
40歳代	27,593		

（注）1回当たりの平均引落額は、次の式で算出し、円未満切捨てで表示しています。

（当該年代の毎月の契約金額の合計×12÷当該年代の増額月の契約金額の合計）÷12÷当該年代の利用者数